

海の冒険シリーズ③ 若狭湾海湖の自然学校 同窓会

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
		50	参加人数48（福井県13名・滋賀県5名・大阪府8名 京都府7名・奈良県8名・愛知県5名・東京都2名）

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・平成26年度教育事業の一つ「若狭湾 海湖の自然学校」の参加者が再び一堂に会し、ともに活動を通して当時の学びを再確認するとともに、さらなる交流を深める。
- ・保護者会を開催し、事業前後の子どもたちの様子を交流し合うとともに、今後の事業展開の参考とする。
- ・ボランティアリーダーと共に事業を企画・運営することにより実践力を高め、後の「若狭パーティー」での実践へとつなげる。

◆期日・期間

2015年2月7日（土）～ 2015年2月8日（日）1泊2日

◆後援・協力団体

なし

◆参加者分析

- ・自然学校参加者16名が全員集まることができた。自然学校での経験をもとに、参加者同士のつながりが深いことが伺える。

◆企画のポイント

月 日	内 容	宿泊場所
2月7日（土）	始まりのつどい 室内レク・自然学校バスツアー 思い出スライド ナイトウォークラリー・保護者会	国立若狭湾 青少年自然の家
2月8日（日）	貝殻拾い 写真立て作り 終わりのつどい	

※自然学校の同窓会ということで、まずは参加者同士の関係を再び円滑にすることを第一とした。そのため、最初の活動は参加者、ボラと保護者、兄弟姉妹とを分けて活動を実施した。夜の活動は保護者からより深い情報収集ができるように、参加者と兄弟姉妹全員がウォークラリーに参加という形で実施した。2日目の写真立て作りは、家族で会話を楽しみながら活動できるように、座席配置等を考慮して実施した。

◆運営のポイント

- ・1日目の室内レクリエーションとナイトウォークラリーは、ボランティアリーダーが主体となって企画し、リーダー性やリーダーの実践力の向上をねらいとした。

- ・事前アンケートで収集した情報を整理した資料を作成し、保護者会で活発な意見交換ができるようにした。また、自然学校終了後に子どもたちから聞いた話が明確になるように、最初の活動で自然学校バスツアーを企画した。
- ・家族間での交流の機会を生み出すために、ゆとりある活動時間設定にした。

◆安全管理のポイント

- ・兄弟姉妹の参加もあり、参加者全体の年齢層が幅広かった。そのため、各班に無線を携帯したボランティアを配置して、素早く連絡や対応ができるようにした。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	83%	17%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	85%	15%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	88%	12%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

(保護者より)

- ・子どもたちが実際に活動した場所を見ることができてよかった。子どもから聞いた話がつながった気がする。
- ・ボランティアの皆さんとの情報交換の場もあると、より子どもたちの様子がわかってよかったのではないかと。今後は情報交換会へ参加してもらってはどうか。
- ・保護者会では保護者同士で話す機会がもっとほしかった。
- ・思った以上に寒かった。

(子どもより)

- ・バスツアーは大人にはよかったが、子どもはあまり楽しくなかった。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・アンケートや情報交換会を通して、保護者からの情報収集をすることができ、今後のプログラム開発につなげることができる。
- ・参加者同士が再びともに活動する時間を設定したことで、自然学校のことを思い出し、改めて仲間との絆を深めることができた。
- ・ボランティアの企画実施力を育成する機会を設けることができた。実施後の検討内容を次回の活動に活かすことができる。
- ・活動時間にゆとりを持たせたことで、活動時間以外でも関わることができ、同窓会参加者全体の親睦を深める機会をつくることができた。

(2) 課題

- ・海での活動を計画しにくい時期なので、室内で満足度の高い活動を企画していく必要がある。
- ・情報交換会の実施形態を考え直す必要がある。

5. 活動の様子

はじまりのつどい



室内レク



自然学校バスツアー



日の入り前の海辺で



夕食



思い出スライド



ナイトウォークラリー



保護者との情報交換会



写真立て作り①



写真立て作り②



終わりのつどい



集合写真

